



**Data** 2022-140

監督・脚本: アレックス・ガーランド

出演: ジェシー・バックリー/ロリー・キニア/パーパ・エッシ  
ドウ/ゲイル・ランキン

## 👁️👁️ みどころ

世の中には多才な人も散見するが、作家として、脚本家として、更に映画監督として、それぞれ名を成しているアレックス・ガーランドはすごい。監督デビュー作でアカデミー賞視覚効果賞を受賞した『エクス・マキナ』(14年)はめちゃ面白いSFスリラーだったが、監督第3作目となる本作は？

本作では、まず全編出ずっぱりのヒロインの目の前で落下していく男の姿に注目！夫婦ゲンカを描いた映画はたくさんあるが、これは一体ナニ？

トンネルを抜けると雪国だった。そんな書き出しにも共通する、カントリーハウスでの、想像を絶するさまざまな体験をしっかりと共有したい。そうすれば、思わずゾオッ。背筋が寒くなってくること必至・・・。

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

### ■□この監督に注目！その才能は原作、脚本から監督まで！■□

本作を監督したアレックス・ガーランドは、小説家として、鬼才ダニー・ボイル監督、レオナルド・ディカプリオ主演『ザ・ビーチ』(00年)の原作を書き、脚本家として、『28日後・・・』(02年)、『シネマ3』236頁、『28週後・・・』(07年)、『シネマ18』364頁、『わたしを離さないで』(10年)、『シネマ26』98頁)の脚本を書いているから、すごい。そのうえ、彼の監督長編デビュー作であり、アカデミー賞の視覚効果賞を受賞、脚本賞の候補にもなった『エクス・マキナ』(15年)、『シネマ38』189頁)は、AIロボットの反乱をテーマとしたもので、めちゃ面白かった。彼の2作目『アナイレイション 全滅領域』(18年)は観ていないが、3作目のホラーとして登場した本作は、良質な映画提供を続けている「A24」がタグを組んでいることもあり、事前評価も高い。

本作は、夫を亡くした傷心の女性・ハーパー(ジェシー・バックリー)が癒しのために

滞在した、美しい風景の田舎にあるカントリー・ハウスの内外で恐ろしい体験をする SF スリラーだそうだが、さて・・・？

ちなみに、『エクス・マキナ』はアリシア・ヴィキャンデルという美人女優を AI ロボットとして起用したのが大成功だったが、本作で全編出ずっぱりのヒロイン、ハーパー役を演ずる女優、ジェシー・バックリーの魅力は？

## ■□■冒頭のシーンは？トンネルを抜けると不条理スリラーに■□■

映画にはフラッシュバックという便利な手法があるから、時系列をいかようにでも動かすことができる。本作のメインストーリーは、車で4時間もかかる田舎のカントリー・ハウスに滞在するハーパーが体験する様々な SF スリラーだが、到着したハーパーが管理人のジェフリー（ロニー・キニア）からカントリー・ハウスの案内をしてもらって導入部は、この男が「かなりの変わり者だ」というだけで、特段の異変はない。ジェフリーが去った後、女友達のライリー（ゲイル・ランキン）に携帯で現状報告をしている姿を見ても、気分転換のために、わざわざここまでやってきたハーパーの開放感を感じ取ることができる。

そんなストーリー展開の中でフラッシュバックとして登場するのが、屋外で男が落下していく姿を、部屋の中から見つめるハーパーの姿だ。①この男がハーパーの夫、ジェームズ（パーパ・エッシードウ）であること、②ジェームズとハーパーは激しい夫婦喧嘩を繰り返していたこと、③夫婦喧嘩のある局面でジェームズから殴打されたことに怒ったハーパーがジェームズを追い出したところ、ジェームズは上の階の部屋に入り、そこから落下したこと、④それが転落死か自殺かはわからないが、それによってハーパーはジェームズを死に追いやったのは自分だという思い（恐怖）に取りつかれたこと、⑤その傷心の癒しとして、今、ハーパーはカントリー・ハウスに来ていること、等がわかる。

なるほど、なるほど。たしかに、こんな美しい田舎の森の中を1人で散歩すれば、少しは元気が回復するのでは……。翌朝、ハーパーは1人で散歩に出かけ、トンネルの中で「ハーパー！」と呼ぶと、こだまが何度も返ってきたから面白い。まるで子供のように何度も「ハーパー！」「ハーパー！」と繰り返しながら、彼女はトンネルを抜けたが、さて、トンネルの向こうの世界は？

「トンネルを抜けると雪国だった」。これは、有名な川端康成の小説『雪国』の書き出しだが、それと同じように、本作では「ハーパー！」「ハーパー！」と、こだまを楽しみながらトンネルを抜けると、そこからは不条理ホラーの世界が始まるので、それに注目！

## ■□■裸の男も、町の男も、少年も神父も、全員ヘン！■□■

世界文学全集の1つであるエミリー・ブロンテの小説『嵐が丘』を、私は中学生の時に読み、言いようのない恐ろしさを感じたが、それは映画を見ても同じだった。しかし、『嵐が丘』に登場する不気味な古いお屋敷に比べると、今、ハーパーが滞在しているカントリー・ハウスは快適な別荘のはずだ。玄関の広場に植えられているリンゴの木に成っている実をハーパーが勝手に取って食べるのは少しお行儀が悪いが、責められるほどの行為では

ない。管理人のジェフリーも軽い冗談のつもりでその行為を咎めていたが、徐々に不条理スリラー色を濃くしていく本作を見ていると、これがアダムとイブが犯したというある“禁断の行為”のようにも思えてくる。しかして、本作が最初に不条理スリラーであることを明らかにするのは、ハーパーが門の外に立っている奇妙な裸の男を発見した時だ。こりゃ一体ナニ？

そんな事態に出会ったハーパーが警察に連絡したのは当然だが、さて警察の対応は？さらに、気分転換のための森の散策を終えたハーパーが、管理人のジェフリーから教えられたおしゃれなバー（？）に一杯飲みに行くと、そこにはジェフリーの姿や町人の姿が。バーは楽しい話が出来てこそその価値だが、ジェフリーや男たちとの腹立たしい会話に憤慨したハーパーは店を飛び出す事態になったから、アレレ。さらに翌日、ハーパーが村の教会に入って座っていると、そこでワケのわからない仮面をつけた少年や、やけに親切に近づいてくる神父に出会ったが、彼らとの会話もすべて腹立たしいことばかり。この村ではなぜそんな風になってしまうの？この村の男たちは、あの裸の男だけでなく神父や警官も含めて全員ヘン！

### ■□■この浮き彫り彫刻に注目！同じ顔の男たちに注目！■□■

本作後半の物語では、第1にハーパーが教会の中で出会う「シーラ・ナ・ギク」という浮き彫り彫刻に注目！それは、『キネマ旬報12月下旬号』の「REVIEW 日本映画&外国映画」の中で一人の評論家が「ここ数年、気になっていた浮き彫り彫刻が教会場面でドンと出現し、驚く。プレスで、“シーラ・ナ・ギク”という名称をはじめて知った。なぜ気になっていたかという、これは古事記に出てくるアメノウズメノミコトの陰部露出（そのおかげで世界に陽光が再来する）に通ずるイメージだから。洋の東西問わずエロ本屋さんの女神みたいな存在はいるのだ。」と述べているからだ。『ローマの休日』（54年）では、トレヴィの泉でオードリー・ヘップバーン扮する王女サマが、“真実の口”に手を突っ込むシーンが世界中で話題になったが、シーラ・ナ・ギクの浮き彫り彫刻は全世界に広がるの？

本作後半の物語では、第2に、①当初は、悩めるハーパーに救いの手を差し伸べてくれるかと思った神父の意外な素顔②最初は仮面をかぶった姿で登場し、その後もなぜかハーパーにまわりついてくる少年の顔に、共通点があることに注目！更に、よく考えると（？）、このカントリー・ハウスに入ってからハーパーが出会った人物はみな“同じ顔の男たち”ばかり。管理人はもとより、あの全裸男の顔も、それを逮捕した警察官の顔も、みんな同じだ。そんなバカな！そんな不条理な！でもなるほど、だから、本作の邦題のサブタイトルは「同じ顔の男たち」にされているわけだ。

### ■□■本作はホラー！それがラストに続く20分に凝縮■□■

『エクス・マキナ』はSFスリラーの名作だったが、そのアレックス・ガーランド監督の3作目たる本作は、スリラーではなくホラー。だって、夫を失うという失意の中、そこから回復すべく大奮発してやってきたカントリーハウスでハーパーが体験するのは、奇妙

な事ばかりなのだから。そもそも来訪時に、玄関にあったリンゴの木からその実を一つとって食べたことを、冗談とはいえ、なぜあんなに責められなければならないの？また、冒頭に見た窓の外での夫の転落シーンが、極端なスローモーションだったことは途中でわかるが、それを事故死とハーパーが確信できないのは、なぜ？

夫婦ケンカの際に夫からビンタが飛んでくるのはたまにあること（？）だが、それが一回あっただけで夫は家を追い出され、自殺にまで追い込まれるものなの？ハーパーがス薄喧嘩を繰り返す中で、「男なんてみんな同じ！」「もうウンザリ」と考えていたのは仕方ない。そうかといって、カントリーハウスに入ってから男の顔がみんな同じなんてことがあり得るの？そして、何よりも奇妙な裸の男は一体ナニ？これはひょっとして、ハーパーの潜在意識の中にある何らかの存在が、幻想として登場しているの？

本作のイントロダクションには、「ラストへと展開する怒濤の20分は永遠のトラウマになること必至」と書かれている。そんな怒濤の20分は、あなたの自身の目でしっかりと。

2022（令和4）年12月28日記